

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【春野中学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策	
知識・技能	知識・技能の定着について、一定の成果が得られたが、十分とは言えないため、引き続き、各教科授業の5～10分で知識・技能を問う小テストを繰り返し行い、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。また、覚えなければならない事項について、授業の中で覚える時間を設け、生徒同士で問題を出し合うことで、定着を図りたい。さらに、ドリルパークを活用し、反復練習の時間を設ける。	
思考・判断・表現	複数のデータから情報を読み取り、解釈することに課題が見られたため、教科横断的な視点として、表やグラフの特徴や傾向を捉えて、言葉や数を用いて表現する活動に重点的に取り組んでいく。 また、主体的・対話的で深い学びに向けて授業改善に引き続き取り組み、「学級の生徒との中で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合がどの学年も95%以上を目指す。	

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<学習上の課題>基礎・基本的な知識・技能の習得状況が二極化している。<指導上の課題>習得した技術・技能を学級全体で学習活動にパランスよく設定することが難しい。<学習上の課題>自らの学びをメタ認知し、自己調整していく力が弱い。<指導上の課題>適度に他者へ頼り、周囲からの解決を期待している。	全ての教科において、生徒が達成感を味わえるような課題を設定し、問題の解決に向け生徒が自分一人で考える時間と、友達同士で話し合う時間を確保する。【毎授業で10分実施】 「ドリルパーク」等活用し、国語においては短歌表現技法を理解する内容、数学においては基本的な計算等の反復学習を行う。その際、生徒の学習履歴を確認し、学習計画作成時、教師側のアドバイス資料とする。【自己学習時間に設定】
思考・判断・表現	<学習上の課題>国語「思考・判断・表現」本文の要約、短歌技法の無回答率が高い。<指導上の課題>本文を読みとり、集約し要約する学習や短歌技法の基礎・基本を学ぶ時間が不足している。<学習上の課題>学習に対して意欲的でない場面がみられる。<指導上の課題>生徒主体の学びとなるような授業が少ない。	生徒が文章要約・短歌技法等に取り組み際、「オクリンクプラス」を活用し、評価の観点を示し、生徒が思考したプロセスにコメントを付記し評価する。【課題提出時】 活動の中に共同課題解決時間を位置づけ、「協動的な学び」を通じて考えたり、表現したりすることができるようになる。【R6年度さいたま市学習状況調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合が85%以上】

⑤	評価(※)	授業改善策の達成状況
知識・技能	B	各教科、授業の5～10分で知識・技能を問う小テストを繰り返し行い、反復・習熟の時間を確保したことで、一定の成果が得られた。また、記述や考え方の例を示したり、友達同士で話し合ったり、教えあったりする活動を取り入れたことで、課題に対して粘り強く取り組む生徒が増えた。
思考・判断・表現	B	「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」の質問項目についての肯定的な回答が85%を越え、目標達成した。個で考えさせるだけでなく、ペア、グループ、全体で考え、問題解決方法を共有できる時間を設けたことで、達成感を感じさせることができた。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語の「言葉の特徴やの使い方にに関する事項」において、特に「短歌に用いられている表現の技法を説明したものとして適切なものを選択する」の問題に課題がみられた。解答類型を見てみると、短歌に用いる表現技法「体言止め」については理解できているが、「比喩」や「対句」に対する理解が不十分であり、使い分けが出来ず解答率が低くなっていることが考えられる。R6年度さいたま市学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたか」における肯定的な回答の割合は87%であった。子ども主体の学びとなるような授業を今後も継続していく。	
思考・判断・表現	国語の「読むこと」において、特に「目的に応じて文章を要約すること」が必要である。文章として、表現すると要約から外れ、「表現の技法について理解しているかどうかをみる」の問題に課題がみられた。解答類型を見てみると、本文に書かれている着目点や段の役割を要約して表現することができていないため、日常的に、文章から読みとり相手に要約して伝えることが出来ていないと考えられる。 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」における、肯定的な回答の割合は80%であることから、共同編集等、協動的な学びの機会を適宜確保する必要がある。	

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語では、「言葉の特徴や使い方にに関する事項」について、全体的に課題がみられる。特に、「慣用句」と「文語のきまり」において顕著である。数学では、整数の加法・減法の計算、図形の性質を用いて求める問題は比較的できている。一方で、一次関数の式を理解しているものの、変化の割合や座標等を利用して事象に即して解釈する力に課題がある。社会では、地理の内容の定着に課題が見られ、時差の問題を不得手とする生徒が多い。理科では、「粒子を柱とする領域」についてはよくできており、「地球を柱とする領域」について課題がみられる。	
思考・判断・表現	国語の「書くこと」については比較的正答率が高い。また、読むことにおいて、日々の指導の見立てでは、正答率が伸び悩んでいるように感じる。数学では、ヒストグラムから必要な情報を読み取ることができている一方で、データの分布の傾向を比較して、数学的な表現を用いて説明することに課題がある。社会では、資料から情報を読み取ることができているが、複数の資料から情報を読み取って考える力が弱いことが分かる。理科では、実験結果から何が言えるか考える力に課題がある。	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	生徒が達成感を味わえるような課題を設定し、問題の解決に向け生徒が自分一人で考える時間と、友達同士で話し合う時間を確保することに取り組んだが、毎時間10分ではなく5分程度になってしまった。 「ドリルパーク」等活用し、国語においては短歌表現技法を理解する内容、数学においては基本的な計算等の反復学習を行ったが、実施回数が少ないため、授業時間の組み立てを改善し実施数を向上させていく。	変更なし
思考・判断・表現	B	生徒が文章要約・短歌技法等に取り組み際、「オクリンクプラス」を活用し、評価の観点を示し、生徒が思考したプロセスにコメントを付記し評価したが、毎時間取り組むことができなかった。 活動の中に共同課題解決時間を位置づけ、「協動的な学び」を通じて考えたり、表現したりすることができた。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)